1.　評価結果概要表

作成日　平成２２年１月２９日

【評価実施概要】

事業所番号	4590100105
法人名	社会福祉法人愛鍼福祉会
事業所名	グループホーム シルヴァーリージャ
所在地	宮崎県宮崎市大字加江田４５４０番地３ （電　話）0985-65-2330

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町２番２２号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価結果	平成22年1月29日

【情報提供票より】（平成２１年１１月２４日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成１９年４月１日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	13 人	常勤9人，　非常勤4人，　常勤換算9.45人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	1 階建ての　1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	実費　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,300　円			

（４）利用者の概要（平成２１年１１月２４日現在　）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護１	2	要介護２	1		
要介護３	5	要介護４	1		
要介護５	0	要支援２	0		
年齢	平均　88.4 歳	最低	85 歳	最高	93 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	山元リハビリテーションクリニック、井出医院、中山歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

観光地として有名な青島の北側に位置し、目の前には水鳥の遊ぶ川面と運動公園のドームの屋根が見え、景観に恵まれた広い敷地の中にある。地域の中のホームとして自治会に加入し、管理者は積極的に地域の人々との交流に力を注いでおり、管理者としての能力を大いに発揮している。また、職員を育てる研修や防災訓練等にも力を入れている。職員は介護に対する意識が高く、利用者が地域の中で安心して暮らしていけるようにと心のこもったケアを実践している。利用者と職員の信頼関係が着実に出来ており、全員の表情が明るく元気な様子が見て取れる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の外部評価を踏まえ、職員全員でホーム独自の理念を作り上げ実践に当たっている。また、運営推進会議、家族会との協議を重ね、ターミナルケアの指針を打ち出すなど全てが改善へと向かっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員それぞれが自己評価に取り組み、毎月開かれるミーティングや日々の申し送りの中で評価の意義を十分理解し、サービスの向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	２か月に１回の頻度で地域包括支援センター、家族、地区の役員、民生委員等、各方面からの出席のもとに開かれている。ホームの取り組みや利用者の状況などの報告が行われ、時には議題を決めずそれぞれの意見を聞き、話し合いの方向にと進めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目:外部7,8）
	家族の来訪も多く、来訪の折には気軽に話し合える関係作りがされている。苦情や意見が出された場合は、すぐに話し合いが行われ、改善への取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入しており、地区の行事に積極的に参加している。散歩の途中に顔なじみの近所の家に立ち寄り、お茶を飲みながら世間話に興じたり、また、ホームの運動会や暮れの餅つきに地域の方が積極的に参加してもらえる環境作りが出来ている。

2.　評　価　結　果　（詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に、職員全員でホーム独自の理念を作り上げている。地域の中で安心して暮らし続けていけるようにとの思いが理念に込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作り上げた理念であり、日々のケアの中で、常に理念の精神を心がけ実践に生かされている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。地域住民もホームの行事に参加するなど、積極的な交流がなされている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、全職員が評価の意義を理解しており、外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は２か月に１回開かれ、利用者家族も参加し活発な討議がなされ、サービスの向上に結びつく会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、気軽に話し合う機会も設け、共にサービスの向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを作成し、金銭出納や領収書を同封し送付している。ホームと家族の連携が良く取れている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見や苦情が出せる関係が出来ており、出された苦情や意見にはすぐに対応し改善に向けた取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあまりない。退職者が出た場合は利用者に十分な説明を行い、不安を与えない配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は職員を育てるために１年間の研修計画を立て、積極的に法人内・外の研修に参加できる体制が出来ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、同業者との交流があり、サービス向上につながる勉強会や交流が出来つつある。	○	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や勉強の機会はあるが、さらに幅広く同業者間の交流を持ちサービスの向上につなげてほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人施設からの入居が多く、職員間の交流もあり、利用者は安心してサービスを受けることができる。他の施設や他方面からの入居に際しては家庭を訪問し、また、ホームへの見学などで徐々になじめるよう工夫がされている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の安心と納得のいく支援を大切にしている。人生の経験者としての知恵を借り、尊敬し、常に学ぶ心を持って接している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何をしたいか、どのような暮らしを望んでいるか、日々の生活を通して、利用者の希望や意向の把握に努めている。また、家族を通して本人の意向をとらえ、希望に沿えるように努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	管理者、ケアマネージャー、担当者、家族等と話し合い、利用者本意の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中での小さな変化や、利用者、家族の要望に応じて見直し、また、毎月のモニタリングを確実に行い、介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、特別な外泊、家族の宿泊などホームの多機能性を生かした支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望に応じ、従来の掛かりつけ医の受診となっている。また、法人の医師の往診も定期的に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	関係者間の十分な話し合いの下にターミナルケアの指針を打ち出し、家族の意向も踏まえて同意書を作成している。職員も前向きにとらえ理解を示している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや、さりげなく接する態度にも利用者のプライドを傷つけない配慮が伺える。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあるが、利用者の意思を尊重し要望に沿った支援を行ってる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、後片づけなどを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じものを楽しく語らいながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の出来る体制があり、利用者は希望する時間に入浴できるようになっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームに入居後、詩吟の初段の資格を取った方、また、昼食後に職員の弾くピアノや大正琴に合わせ、童謡やなつかしい歌を歌うなど、利用者に心の張りを持たせるような積極的な支援が出来ている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩はコースを変えて歩き、食事の買物など、日常的に外出の支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての鍵はかけず、見守りの体制を心がけている。また、地域の方々の見守りの協力も得ている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月夜間訓練を行い、また、海や河川が近い事もあり津波に対する訓練もされている。地域の消防団との連携も取れている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量ともに記録されており、管理栄養士の指導により、栄養のバランスも取れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭からの光がどの場所にも入り、大きな窓からは外の景観が見渡せ、また、建物内も清潔に保たれている。壁の飾り物は季節に合わせた工夫が凝らしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの部屋は使い慣れた家具や仏壇、家族の写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。		

※ ▒ は、重点項目。